

建設会報 いずも

No.113 2006年新春号



編集・発行人 (社)島根県建設業協会出雲支部
経営改善研究委員会



—表紙写真—

(株)出雲建設会館
出雲市場治善行町2-2

平成17年3月より移転に伴う新築工事を進めておりました
当会館は、同年7月に竣工し、8月1日より業務を開始しました。

JR出雲市駅西側という大変便利な場所に完成した会館の全
景です。



CONTENTS

- 巻頭言／中筋 豊通〔(社)島根県建設業協会出雲支部長〕……………1
- 新年のご挨拶
 - ／内藤 正彦〔国交省出雲河川事務所長〕……………3
 - ／櫻 隆之〔出雲土木建築事務所長〕……………4
- 建設産業対策の取り組みについて……………5
 - ／島根県土木部 建設産業対策室
- 平成16年度優良工事表彰……………7
- 優良工事表彰を受賞して／青木 和正〔(有)藤木組〕……………9
 - ／高野 輝久〔(株)安井組〕……………10
- 年男の抱負／園山 雅夫〔(株)園山組〕……………11
 - ／水口 賢一〔大和建设(株)〕……………12
 - ／西尾 仁〔(有)西尾組〕……………13
- 技士会先進地視察報告／安達 稔〔(株)ダイニ〕……………14
- 新入会員紹介……………15
- 建設業一口メモ……………15
- 編集後記／岩成 健治〔経営改善研究委員〕……………17



ひのえいぬ

丙戌「やるべきことをやる」

(社)島根県建設業協会出雲支部
支部長 中筋豊通

新年 明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、素晴らしい新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

さて、「災」の年から「愛」の年と云われた昨年でしたが、107人の犠牲者を出した尼崎のJR西日本脱線事故。中皮腫などのアスベスト健康被害が表面化。少年、少女をめぐる残虐な事件。マンションなどの耐震偽装発覚.....個人も企業も、道理を忘れるべきことをやらずに、利己心に走った結果が、残念ながら、つらい、悲惨な出来事を生んだのではないのでしょうか。

平成十八年【丙戌】今年はどうなるのでしょうか。広辞苑を引いてみました。

いぬ【戌】 十二支の第11番目に位するもの。西から北へ30度の方角。昔の時刻の名。今の午後八時ごろ。また、およそ午後七時から九時のあいだの時刻。

いぬ【犬・狗】 食肉類の獣。よく人になれ、嗅覚と聴覚が発達し、狩猟用・番用・軍用・警察用・労役用・愛玩用として広く飼養される家畜。大きさ、色、形など様々である。ひそかに人の隠事を嗅ぎつけて告げる者。まわしもの。間者。犬追物(いぬおうもの)の略。或る語に冠して、似て非なるもの、劣るものの意を表す語。また、卑しめ軽んじて、くだらぬもの・むだなものの意を表す語。「- 夢」「- 死」「- 侍」

犬と猿。犬に論語。犬の川端歩き。犬の糞で敵を討つ。犬の遠吠え。犬骨折って鷹の餌食になる。犬も食わぬ。何故でしょうか、あまり良い意味、たとえが出てきません。強いて上げれば、犬も歩けば棒に当たる 物事を行う者は、時に禍に遭う。また、やってみると思わぬ幸いに会うことのとえ。犬も朋輩鷹も朋輩 同じ主を持てば、門を守る犬も御殿の中に飼われる鷹も同輩である。身分に差別はあっても同輩は同輩であることのとえ。この2つくらいなものです。近すぎる動物だから甘えているのでしょうか、辞書を引いて、犬に悪い気がしてきました。

さて、建設経済研究所によると(グラフ参照)、06年度の国の建設投資は、対前年度比 2.4%の50兆8,800億円になると予測、政府建設投資は85年度以来の20兆円割れだった(19兆7,800億円)05年度に続き、06年度は 8.4%の18兆1,200億円、79年度の規模まで縮小するとみています。

また、島根県は一般会計で100億円の収支改善を目指して、県負担の公共事業費を、17%、70億円削減の360億円に抑えると発表。さらに厳しい年になりそうです。

一方、昨年9月に提示された「品質確保促進ガイドライン」が実行されると、島根県でも指名競争入札が減り簡易型一般競争入札の拡大、さらに総合評価方式に移行

していくでしょう。施工計画について、配置予定技術者のヒアリングも行われるでしょう。さらに、「改正独占禁止法」施行に当たり、業界に一大転換が起ころうとしています。大競争時代が来るかもしれません。

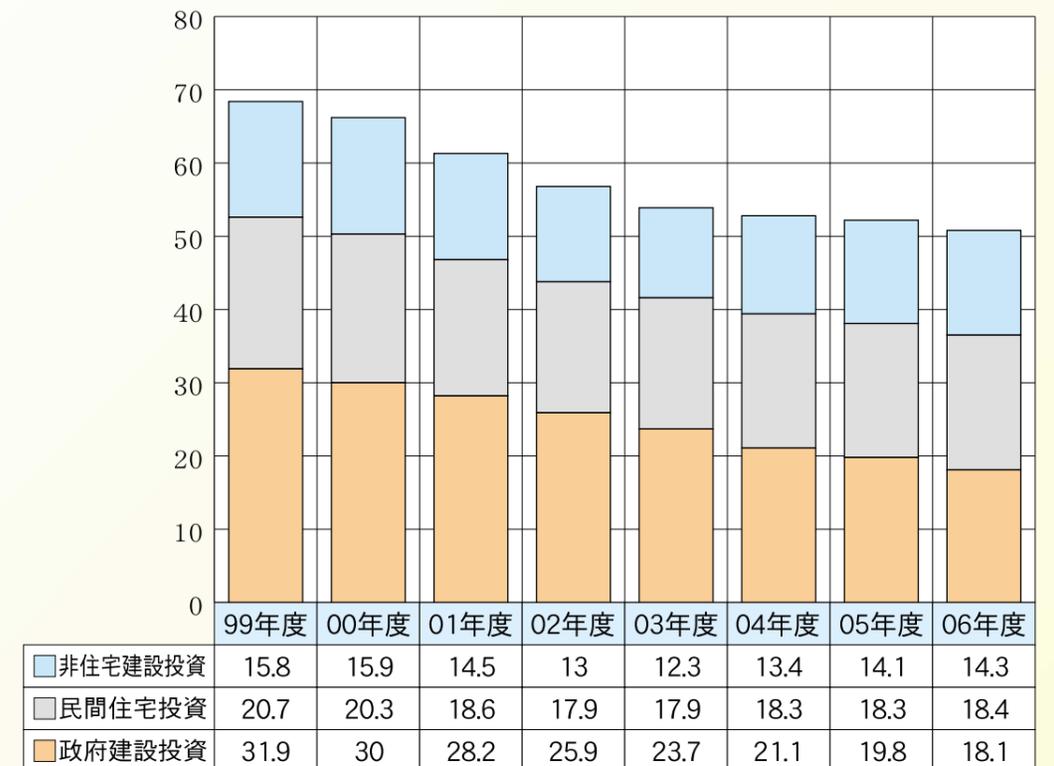
しかし、どんなに環境が変わろうとも建設業は必要です、丙戌「犬も歩けば棒に当たる」やれば幸運にも会うでしょう。努力すればきっと良いことに行き当たる筈です。動かねば何も起こりません、言い訳は後退です。市民の安全・安心のために、「選ばれる・信頼される建設業」を目指し、各自、各社、道理を忘れず「やるべきこと」をやりたい。

ありがとうございました、本年も宜しくお願いいたします。

歯止めがかからぬ、建設投資の落ち込み

建設業に明日はあるのか？

05年度 52兆1千3百億円 (1.2%) の見通し
06年度 50兆8千8百億円 (2.4%) と予測



(単位:兆円)



新年のご挨拶

国土交通省出雲河川事務所
所長 内藤正彦

新年明けましておめでとうございます。(社)島根県建設業協会出雲支部の皆様方へ謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、皆様には、平素より出雲河川事務所の治水、水環境保全の取り組みに多大なるご尽力を賜り誠にありがとうございます。

平成17年を振り返りますと、中国地方の西部や九州地方などでは大きな水害に見舞われたところですが、幸いにも斐伊川水系では大事に至るような災害の発生は免れました。その一方で、平成8年以来となる濁水や水質事故の頻発に見舞われるなど、水環境を巡る様々な課題への対処が求められた一年でした。

私どもが取り組んでおります「斐伊川・神戸川治水」につきましては、斐伊川水系中流の「斐伊川放水路事業」では神戸川拡幅部で新たな堤防が順次完成し、旧堤防(現神戸川堤防)からその役割を順次引き継ぐ段階まで工事が進んできております。いよいよ「川」と「地域」との接点となる河川の水辺空間について地域の方々のご議論を踏まえて、上げていく段階に差しかかる所です。

下流の「大橋川改修」につきましては、中海・宍道湖を含めた環境について調査を進めるとともに、大橋川周辺のまちづくりについて専門家や市民の参加による検討に着手したところであり、「治水」のみならず「環境」、「まちづくり」とも調和した水環境整備とすべく鋭意取り組んでいます。

昨年11月には中海・宍道湖がラムサール条約の登録湿地となり、地域を挙げて水環境の保全・創造と賢明な利用に取り組むことを世界に対して宣言したところですが、これを契機として、平成18年は水環境改善の事業を公共的に進める一方で、川に汚れた水を流さない、ゴミを捨てないといった水環境の保全の意識や活動が流域の住民や企業に広がることを期待し、支援してまいります。

また、公共工事の品質の確保につきましても、平成17年は大いなる契機となった年でした。「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が策定され、7月には「公共工事品質確保・島根地域協議会及び懇談会」が発足し、国、県、市町村等の公共工事発注機関が連携を図るとともに、業界団体とのオープンな情報交換が可能となりました。島根県の公共工事を取り巻く環境は依然厳しい状況であり、解決すべき課題は山積みですが、その取り組み過程を共有しながら公共工事の品質確保を通じて地域社会に貢献できるよう、共に取り組みを進めて参りたいと考えております。

最後になりましたが、本年が(社)島根県建設業協会出雲支部の皆様方にとって、稔り多い一年となることを祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

出雲土木建築事務所
所長 櫻 隆之

平成18年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、3月の市町合併により「新出雲市」が誕生し、出雲土木建築事務所の所管が2市5町から1市1町になりました。市町村合併が進み、多様化・高度化する住民ニーズの対応や効率的な財政運営が新市・町に求められているように、島根県でも厳しい財政状況のなか、平成16年10月の「中期財政改革基本方針」に基づき、歳入・歳出全般にわたる改革を進めることとなりました。

既に新聞情報等で御承知のように、平成18年度予算要求概要では、平成17年度比17%の大幅な削減が見込まれております。今後は、限られた行政資源を効果的に配分することにより、事業の選択と集中を図り、より効率的かつ効果的な行政活動を展開する必要があります。

将来的にも効率的な事業執行を行うために、公共事業の新たな執行体制を確立することとして、平成18年度から農林水産部地方機関の公共事業実施部門と土木部地方機関との統合により、県土整備事務所を7圏域単位に設置することとなりました。統合の内容は、農林振興センターで行っている公共事業全ての分野についての事業実施機能(実施設計、用地・換地、入札、施工管理、竣工検査等)と、土木建築事務所の機能全部となっています。

これにより、建設業界に対して、地域バランスや発注時期を調整した一元的な発注計画を示すことが可能になってくるものと思われま。

また、昨年4月に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」は、発注者の責務を明確化し、「価格競争」から「価格と品質で総合的に優れた調達」への転換を図ることになり、今後は価格競争に加えて、技術的能力(工事の経験、施工状況の評価、配置予定技術者の経験等)も評価するほか、技術提案を求めるなど総合評価落札方式等による入札制度の導入が進んでいくものと思われま。

一方では、工事の品質確保を図るために建設現場の指導、チェック体制を厳しくし、一括下請負の禁止や不良不適格業者の排除に向けて、適正な施工の確保に努める必要があると考えております。特に昨年は、建設現場における専任技術者の配置違反が数多く見受けられたことから、今後も現場専任制の確認・調査をより一層厳しく行うこととしております。

全国的には都市部において景気回復の傾向があると言われておりますが、山陰地域においては、まだまだ景気回復の兆しが見えず、建設業界を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。このように厳しい状況下の中で、出雲土木建築事務所管内の基盤整備もまだ道半ばであり、厳しい県財政の中ではありますが、更に重点的に整備促進をしなければならぬ道路、河川等の取組を行うにあたっては、建設業協会出雲支部の皆様のご協力とご理解を賜りながら、出雲圏域の発展のために職員一同全力で取り組んで参る所存であります。

終わりに、島根県建設業協会出雲支部並びに会員の皆様方の益々のご繁栄とご活躍を祈念しまして、新年のご挨拶といたします。